

# 東海環状西回り利活用促進会議

## 設立趣意書

東回り区間の開通から10年以上が経過した東海環状自動車道沿線では、沿線市町に49箇所の工業団地が整備され、約130企業が立地し、約3万人の雇用が創出される等、東海環状自動車道のストック効果によるまちづくりが促進されている。現在、西回り区間においては、平成28年度から平成31年度までの開通見通しが一部区間で示されており、1日も早い全線開通に向け事業が進められている。道路の開通見通しが示されることで、道路の開通を見据えた企業立地や、地域の観光資源を生かした観光開発等が進められている。今後、これらの民間投資の需要の更なる高まりが見込まれる中、東海環状自動車道のストック効果を最大限活用し、持続的なまちづくりを促進することが重要である。

一方、民間企業においても、生産性の高い経済活動を展開する上では、インフラを賢く使うことが有効であるため、そのユーザーである企業等の意見をまちづくりに反映させることは、極めて重要である。

そのためには、自治体や経済団体等がまちづくりの情報を共有し、連携して対応していくことが必要不可欠である。

本会は、東海環状自動車道を利活用する自治体や企業等が協力し、アクセス道路や地域開発計画等を含めたストック効果を取りまとめ、情報共有を行うことにより地域開発への理解を醸成し、工業、商業、農業、観光等の幅広い協力を得ることでストック効果の最大化を図り、地域の持続的なまちづくりを支援することを目的として設置するものである。

平成28年7月14日